

平成23年度学習内容定着度調査分析（宇都宮市立清原北小学校5年）

【国語】★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
音声言語	話の中心、内容の聞き取りの正答率は高く、話題に沿った意見を記述する問題は、正答率が低かった。	話の要点の聞き取り方や内容を聞き取りやすい話し方など継続して指導をする。その際、自分の意見を書く指導を多くする。
説明的文章	「文脈に即した内容の理解」で選択式は正答率が高く、記述式の正答率が低かった。 「段落と段落の関係」は正答率が低かった。	各段落の要点を自分の力で読み取っていくなど説明文の読み取り方をもう一度確かめながら学習を進め、文章全体の構成や筆者の主張を理解できるよう指導をしていく。
文学的文章	文脈に即した内容の理解や登場人物の心情の正答率が高かったが、場面の移り変わりは、やや低かった。	登場人物を中心に物語を読み取る練習や、場面を押さえ、文脈に即して心情の移り変わりを読み取る指導を継続していく。
漢字	全体的に市全体の正答率にほぼ等しいが、漢字の読みの力は高く、書きの正答率は低い傾向にある。	漢字の得意な児童と苦手な児童の差が大きくなり、個別の意識付けが必要である。日常の表現指導（ノート、作文、日記、手紙）においても漢字を使う指導の徹底を図る。
言語事項	言葉の意味、修飾語の正答率は高かったが、接続語の補充や熟語の構成の正答率は低かった。	基礎的な力となる読書量を増やしていくとともに、文の構造に関する理解を深める指導を継続していきたい。
作文	手紙の書き方、内容については正答率が高く、質問状の形式が理解されている。	今後も学習の中で、お世話になった人々に、具体的な場面に即して、手紙を書く経験を積み重ねさせていきたい。

【算数】★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	小数のかけ算、わり算、分数の足し算、引き算がよく理解されていた。小数のかけ算の文章題もよく理解されていた。	さらに反復的な学習が進められるようにし、基礎的な力が定着するように指導する。
量と測定	図形の体積を求める問題と単位量あたりの大きさを求める問題の正答率が低かった。	体積については、面積と混同し計算ミスをした児童もいたので、繰り返し復習をする。単位量あたりの大きさでは、何を求めるか数直線を使って考えられるよう既習事項の復習をする。
図形	三角形と四角形の角についてはよく理解されていたが、合同における対応する頂点の正答率が低かった。	合同な図形の対応する頂点については、重ねたり、辺の長さを確認したりし、復習をする。
数量関係	計算のきまり（結合法則）についての理解はよかったが、比例の式を求める問題で正答率が低かった。	比例の表と式を対応させながら、考えられるよう、繰り返し指導をする。